

第6回横幹連合コンファレンス開催報告

藤本 英雄^{*1}・越島 一郎^{*2}・横山 淳一^{*3}・坂口 正道^{*4}

2015年12月5日(土)、6日(日)の二日間、愛知県名古屋市の名古屋工業大学を会場として、第6回横幹連合コンファレンスを開催しました(Fig. 1 参照)。横幹連合の使命は、自然科学とならぶ技術の基礎である「横断型基幹科学」の発展と振興であり、従前のモノづくりを超えた新しい「コトづくり」を提唱してきました。今回のコンファレンスでは、これまで10年に亘り横幹連合コンファレンスで議論されてきた「コトづくり」を踏まえ、更に次の10年への橋渡しの意もこめて「サステナブル・イノベーションのための智」を統一テーマとして、イノベーションの継続的推進のために我々が提供できる「智」、行動しなければならない「智」を議論する場と考えました。なお、知：知識を収めるだけでなく、智：物事を判断して適切に対応する段階に入ったのではとの思いから、大会統一テーマに「知」に代えて、今回は「智」を用いました。



Fig. 1: 会場の名古屋工業大学正門

今回のコンファレンスでは、社会システムの構成要素である①ヒト、②モノ、③サービス、④組織、⑤社会に視座をおき、以下のイベントを用意しました。

まず、4件の特別講演として、国立長寿医療研究センター名誉総長の大島伸一氏による基調講演「社会・科学・技術について」(Fig. 2 参照)を始め、幅広く多方面の切り口から、株式会社みかんぐみ代表取締役の加茂紀和

^{*1} 第6回横幹連合コンファレンス実行委員長・名古屋工業大学名誉教授

^{*2} 同 プログラム委員長・名古屋工業大学大学院工学研究科教授

^{*3} 同 プログラム委員会幹事・名古屋工業大学大学院工学研究科准教授

^{*4} 同 実行委員会幹事・名古屋工業大学大学院工学研究科准教授

子氏による社会特別講演「人と建築と」(Fig. 3 参照)、快友国際特許事務所弁理士の小玉秀男氏による技術動向講演「3D プリンタの創作過程、当時の評価、特許の失敗」(Fig. 4 参照)、そして筑波大学数理物質系化学域准教授の北将樹氏による挑戦若手講演「切れ味の良い分子を自然界にもとめて」(Fig. 5 参照)を行いました。

また、本部企画の「先達セッション」2セッション、実行委員会企画の「若手研究者セッション」2セッション



Fig. 2: 大島氏による基調講演



Fig. 3: 加茂氏による社会特別講演



Fig. 4: 小玉氏による技術動向講演



Fig. 5: 北氏による挑戦若手講演

と共に、次の5つの領域、ヒトの課題解決と実践5セッション、モノの課題解決と実践8セッション、サービスの課題解決と実践2セッション、組織の課題解決と実践3セッション、社会の課題解決と実践10セッション、一般セッション4セッションの合計36セッションを6トラックで実施しました（Fig. 6 参照）。発表時間は1件30分、1セッション90分を基本とし、110件の発表申し込みがあり、参加者総数は180名となりました。2年前の第5回コンファレンスに比べると減りましたが、第4回コンファレンスとほぼ同じ規模となりました。



Fig. 6: 講演室の様子

論文集については、従来通りの冊子での発行から、CD-ROMやUSBメモリ、オンライン論文集など様々な形について実行委員会で議論しましたが、今回は冊子を作成すると共に、会期中に論文集の電子ファイルをダウンロード可能な形としました。冊子の論文集は、目当ての論文のみでなくコンファレンスの全体像がつかみやすい反面、380ページを超える冊子は取り扱いの面でデメリットにもなります。会誌が電子ジャーナルとして無料公開となり、モバイル端末の進化が著しい現在、オンライン論文集も検討する余地があると思いますが、コンファレンスの運営や参加費との兼ね合いなど議論すべき課題も多いです。

懇親会は、1日目の12月5日（土）18時30分から、名古屋工業大学学友会館内のカフェサラを会場に、立食形式で開催しました（Fig. 7 参照）。事前申し込みが42

名、当日参加が15名で大変盛況でした。参加者からワインの追加の要望が出ましたが、予算の関係で対応できなかったことは残念でした。



Fig. 7: 懇親会の様子

二日目12月6日（日）のお昼休みには、各会員学協会の会長による会長懇談会が開催されました（Fig. 8 参照）。出口会長のご挨拶に続き、各種報告や会員学会相互連携等について意見交換が行われました。



Fig. 8: 会長懇談会の様子

今日の多様化する社会課題・社会要請にリアリティをもって向き合うには、各会員学会設立の背景にある学問領域を超えて知識や成果を集約することが不可欠となっています。そのような背景のもとに2年に1度開催されてきた横幹連合コンファレンスは、横幹技術の「展開」の役割を担っており、各会員学会が有する課題とその解決に関わる知識を深化・共有化・普遍化する交流の場となってきましたが、今後は毎年開催となり、第7回コンファレンスは2016年11月に神奈川県横浜市の慶應義塾大学矢上キャンパスで開催される予定です。単独の学会とは異なる大変貴重な場でありますので、多くの方が参加されることを期待します。

最後に、今回のコンファレンスは、初日の受付で多少のもたつきはあったものの、大きなトラブルも無く無事開催することができました。コンファレンスの開催にご協力いただきました各学協会の中支部・東海支部、実行委員会およびプログラム委員会、横幹連合事務局の皆様にご心より感謝致します。